

中国の一人っ子世代の親子・親族関係②  
—女性対象者から見た母娘の関係性—

○陳 予茜（明治大学・院）、施 利平（明治大学）

本研究は1979年以降に一人っ子政策のもとで生まれた一人っ子女性の母娘関係性に着目する。一人っ子女性は「生男生女都一样（息子でも、娘でも同じ）」という方針のもとで、家庭の中で大事に育てられ、たくさんの注目と教育資源を受け、もっとも恵まれたグループと言われている。他方、公的領域では企業所有制の改革、市場経済の発達、社会競争の白熱化により、中年女性のレイオフ、女子大学の就職難、「婦女回家」論争などさまざまなジェンダー不平等、あるいは女性差別の現象が現れ、女性の立場がますます厳しくなっている。このような矛盾したジェンダー観のもとで生まれ育つ彼女らはジェンダー観と役割意識を構築する際に、母親からどのような影響を受けるのか。

先行研究では母娘の間に緊密な関係性が存在し、母親は娘のキャリア (Macke・Morgan, 1978)、セックス (Smith・Self, 1980)、ジェンダー (Fenichel, 1998) のロールモデルであると指摘された。そして中国では、改革開放と一人っ子政策の影響で、若い既婚女性が年配の既婚女性より自分の親とのつながりが緊密になっていると報告されている (Zhang, 2009)。つまり娘にとって母親のもつジェンダー観と役割意識が自己のアイデンティティを構築する際に重要であり、しかもその重要性は娘の結婚後も続く可能性が高い。ところが、一人っ子女性の母娘関係性はさらに複雑である。なぜならば、母娘が異なった社会環境に成長し、異なったジェンダー教育を受けているためである。一人っ子女性の母親の多くは大躍進・文革大革命の時期に生まれた者である。当時、女性の社会進出を促進するため、公的領域では男性を基準にした「男女平等」が提唱され、女性は勤労だけではなく、外見まで「男らしさ」が求められた。しかし私的領域に入ると、女性は相変わらず妻、母の役割が求められ、生育が女性の「天職」と考えられた (Evans, 1997)。つまり一人っ子女性とその母親がともに公的領域と私的領域では矛盾したジェンダー観のもとで、生まれ育っていた (いる) だけではなく、それぞれの領域で求められるジェンダー役割もまた真逆である。このような真逆な社会環境で成長し、異なったジェンダー教育を受けてきた母親のもつジェンダー観と役割意識は、娘のジェンダー観と役割意識にどのような影響を与えるのか。母娘の間にどのような葛藤や妥協が存在するのか。

本研究は、浙江省紹興市に在住する既婚、子持ち、そして母親が健在する一人っ子女性にインタビュー調査を実施し、一人っ子女性のライフイベント（就職、結婚、出産、子育てなど）に母親がどのように関わっていたのかを分析し、中国の一人っ子女性の母娘関係性を明らかにしたい。

参考文献：

Evans, Harriet, 1997, *Women and Sexuality in China*, Rowman & Littlefield Publishers.Fenichel, O.H., (ed.), 1998, *The Mother-Daughter Relationship: Echoes Through Time*, Jason Aronson Inc.Macke, Anne & William, Morgan, 1978, "Maternal Employment, race and work orientation of high school girls", *Social Forces* 57: 187-204.Smith, Dwayne & G, Self, 1980, "The congruence between mothers' and daughters' sex role attitudes: A research note", *Journal of Marriage and Family* 42: 105-109.Zhang, Weiguo, 2009, "A Married Out Daughter is Like Spilt Water"? Women's Increasing Contacts and Enhanced Ties with Their Natal Families in Post-Reform Rural China, *Modern China* 35(3): 256-283.

(キーワード：中国、女性、母娘関係性)

謝辞：本研究はJSPS 科研費 JK19K02052 の助成を受けたものです。